

オニト交配

# マリナメロン



## 高級指向の黄皮緑肉。

1. 黄金色の光沢ある外皮にさわやかな緑肉。
2. 糖度16~18度と甘さが安定。
3. 果重800g内外の正球形で美しい。
4. ウドンコ病に耐病性で作りやすい。
5. 収穫後の発酵が極めて少なく店持ち良好。



# マリナ<sub>メロン</sub> 栽培の要点



## 特性

- ウドンコ病の抵抗性でその他の病害にも強く、葉やツルは硬く、葉の切込は浅く1段で栽培は容易。
- 果実は球形の1kg内外の大玉種で花落が小さい。黄金色で光沢がある外皮と果実の揃が抜群です。
- 果内は3.8~4cmと厚く、明るい緑肉と糖度16~18度になり食味は非常に良好です。
- 熟期は中生で開花後47~48日で成熟し、収穫後5~8日目ごろが食べごろとなる。

## 作型と適応性

- 12~1月播種で、4~6月収穫のハウス半促成栽培。
- トンネル利用の2~3月播種、6~7月収穫に好適。
- 7~8月蒔、10~11月収穫のハウス抑制栽培。

## 定植

- 地這栽培では、畦巾1.8~2m、ツル間30cmになるように、畦の中央又は肩側に一条植えをする。
- 肥料は、全面基肥を基本とし、成分量で、N.6~10・P.15~25・K.10~13kgとする。
- 苗令は、春作では本葉3~4枚展開、抑制は1~2枚展開時を基本として定植する。
- 地温は、16~18℃を確保し、夜間の気温は10~12℃保つようにする。

## 整枝

- 地這栽培では、親ツルの本葉4~5枚残して摘芯しその後発生する子ツルを、太さ、長さを揃えて2~3本残す。
- 着果は、子ツル8~12節(春作)、又は14~16節(抑制)から出る孫ツルの第1節の雌花で行う。
- 着果枝までの側枝は早めに摘除し、着果枝より上の側枝も早めに除去する。
- 子ツルの摘芯は、着果枝より5枚(地這栽培)又は7枚(立体栽培)残して行う。

- 1ツル2果収穫を目的とするが、着果枝は2~3本程度残し摘果時に摘除する。
- ツル間隔は、ツル先の整頓を適宜行い、光条件を均一にする。

## 着果と人工授粉

- 成り花は、単性花(雌花)だから、花粉を柱頭にまんべんなく軽くつける。
- ホルモン処理着果やミツバチ利用で着果させると良い。
- 着果後6~7日で形と大きさを揃えて、1ツル2果を残して他を摘果する。
- 摘果後果実が5~10cmに肥大した頃にメロンシートを敷くなり玉つりをして果実をいためないようにする。

## 果実の肥大と温度管理

- 着果後30日頃まで肥大するので、晴天日の昼間は35~37℃を目安に管理する。灌水も適宜行う。
- 着色後は最高温度を30~33℃とし、成熟させる。

## 収穫

- 開花後47~48日前後を目安とする。
- ためし切りをして、若取りをしないこと。

## その他

- N過多になると、果梗部に緑条が残る場合がある。
- 開花時の子房は小さいが、着果後の肥大は良好となる。
- 抑制栽培等で親ツル1本仕立、1個取りにすると1.5kg以上の大玉をねらうことができる。

栽培型 \ 月別	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ハウスⅠ	○	●	●	●	●	■					
ハウスⅡ		○	●	●	●	●	■				
トンネル			○	●	●	●	●	■			
ハウス抑制								○	●	●	■

特約店